

イ 各教科の授業で「人権が尊重される学習活動」を

ここまで「学校における人権教育の目標」や「人権教育を通じて育てたい資質・能力」「人権尊重の精神に立つ学校づくり」などについて述べてきました。「人権が尊重される学習活動」をつくっていくためには、これらの趣旨を日々の授業等に反映させなければなりません。

○人権が尊重される授業づくりの視点例

人権教育の推進に当たり、授業等における活動のすべてが、人権尊重の雰囲気醸成するための重要な要素となります。次の表には、人権教育の視点に立った授業の工夫を進めていく際の主な視点を示しています。

視 点	ね ら い	ポ イ ン ト ・ 留 意 点
自己存在感を持たせる支援を工夫する。	「授業に参加している」という実感を持たせる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習内容や活動に応じた座席の工夫や発問・応答のパターンの工夫を行う。 ○ 児童生徒の既習事項や生活体験、興味・関心等を把握し、様々な視点から解決できるように課題設定の工夫を行う。 ○ 児童生徒の学習意欲や習熟の度合いを把握し、課題（教材）を複数準備したり、ヒントカードを与えたりする。 ○ 結果にこだわらず、思考過程や学習過程を認める。
	「自分が必要とされている」という実感を持たせる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 意図的な指名等、一人一人が活躍する場や課題を工夫する。 ○ 自由な発想や方法が認められたり、自己選択できる場を工夫する。 ○ 互いの発言を最後まで聴く習慣や誤答を大切にすることを身に付けさせる。 ○ 協力して活動できる場を工夫し、互いの考えや方法のよさに気付かせる
	教師自身が一人一人を大切にしている姿勢を示す。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一人の名前を呼び、目を見て話す。話をよく聴く。 ○ 発言しない児童生徒に配慮するとともに、適切な支援を行う。 ○ 承認・賞賛・励ましの言葉をかけ、個に応じた改善課題や改善方法を示す。
共感的人間関係を育成する支援を工夫する。	「自分が受け入れられている」と実感できる雰囲気をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「誰にでも失敗はある」「誰もがよさや弱さをもっている」という認識に立って、互いを尊重し合う人間関係づくりを行う。 ○ 一人一人が自由に発言できる雰囲気作りを行う。 ○ 教師の意図と異なる考えを抑圧したり切り捨てたりしない。
	「共に学び合う仲間だ」と実感できる雰囲気をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他者の発言や作品のよさに気づき、学ぼうとする態度を育てる。 ○ 自分の考えと異なる意見や感情を拒絶せず、それを理解する技能を育てる。 ○ 他者の気持ちや立場を考えて自分の言動を選択・構成する態度を育てる。 ○ 互いの役割や責任を認め合う態度を育てる。
自己選択・決断の場を工夫して設定する。	学習課題や計画を選択する機会を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発達段階に応じて、複数の学習課題の中から自分にあった課題を選択する機会を設定する。 ○ 発達段階に応じて、学習の見通しをもって計画を立てるための支援を行う。
	学習内容、学習教材を選択	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒の実態を踏まえて多様な教材・教具を準備し、選択の幅を与える。

する機会を提供する。	○ 自分の習熟の度合いや興味・関心に基づいて、教材・教具を選択できる場を設定する。
学習方法を選択する機会を提供する。	○ 児童生徒の実態を踏まえて児童生徒の実態や学習内容に応じた学習方法を提示し、選択の幅を与える。 ○ 課題解決のための情報や資料を準備し、その活用方法について適宜助言する。 ○ ワークシートやノート整理の方法、学習内容のファイルの仕方を助言する。
表現方法を選択する機会を提供する。	○ 児童生徒の実態を踏まえて多様な表現方法を提示し、選択の幅を与える。 ○ 考えをまとめるための多様な学習ノートを準備する。 ○ 相手や内容に応じた表現ができるよう、多様な表現スキルを提示する。
学習形態や場を選択する機会を提供する。	○ 児童生徒の実態や学習内容に応じた学習形態や活動の場を多様に提示し、選択の幅を与える。 ○ 自分の課題や方法に基づいて活動内容や場所を選択する機会を設定する。
振り返りの方法を選択し、互いの学びを交流する機会を提供する。	○ 児童生徒の実態や学習内容に応じた学習成果のまとめ方を多様に提示し、選択の幅を与える。 ○ 自他の学習課題や解決方法、学習の仕方やまとめ方等を振り返って交流する時間を設定し、他者の成果に学ぶとともに、今後の学習課題や方法について選択・決定できる場を工夫する。

文部科学省 『人権教育の指導方法等の在り方について [第三次とりまとめ]』～実践編～
平成20年3月 pp. 3-4から引用

人権が尊重される授業づくりチェックリスト

授業の具体的な場面で、「人権が尊重される授業づくり」の意識をチェックしてみましょう。次の23項目について、自分の授業を振り返ってみてください。（項目は、大阪府教育センター「OSAKA人権教育ABC Part 3 ―集団作り（探究編）―」から引用）

（3点：よくあてはまる 2点：あてはまる 1点：あまりあてはまらない）

	項 目	3点	2点	1点
ア	①授業の中で「分からない」と言える雰囲気がある。			
	②疑問に思うことをすぐに尋ねられる場・機会を設定している。			
	③多様な意見や考え方（発言）を大切に取上げている。			
	④「分からないことははずかしいことではない」「疑問を出すことはすばらしいことだ」という価値観を普段から育てている。			
イ	⑤誰の発言も尊重されている雰囲気がある。			
	⑥友だちの発表に注目しようとする雰囲気がある。			
	⑦授業内で全ての児童生徒たちが発言できる機会をつくっている。			
	⑧発表はみんなの方を向いて行われ、発表を聞くとき、発表者の方を見るなど、傾聴の雰囲気がある。			
ロ	⑨友だちの意見に関連付けて自分の意見を発表するよう支援している。			
	⑩多様な意見が出されるように授業展開を工夫している。			
	⑪友だちの意見に対して相互に評価させるようにしている。			
	⑫お互いの努力や成長を評価させる機会をつくっている。			
	⑬友だちと協力して導かれた結論が、集団の成果として共有されている。			
ハ	⑭つまづいている友だちに対して、教え合いや励ましなど、温かい雰囲気がある。			
	⑮授業の中で児童生徒が協力する場面を設定している。			
	⑯協力できる友だちを徐々に増やし、さまざまな友だちや男女間の協力が進むようにしている。			
ニ	⑰「この子はどうせできない子だ」などと友だちを決めつけず、できない・やらない理由を丁寧に聞き出し、自分たちの課題として受け止めようとする雰囲気がある。			
	⑱友だちにとって本当にためになる（優しい・厳しい）関わりをしようとする雰囲気がある。			
	⑲友だちの頑張りや励ましを受け止めて、自分も努力しようとする雰囲気がある。			
ヒ	⑳自分たちで主体的に取り組める課題を設定している。			
	㉑その日の学習についての振り返りの場を設定している。			
	㉒学年などで授業の手法や発問などについて一致させて進めている。			
	㉓一斉授業の中でも、ペア学習やグループ学習などを取り入れている。			

【チェックが終わったら、次の集計表にア～カそれぞれの項目で合計した点数を記入する。】

合計得点	◎	○	△	授業づくりの様子	おすすめの手立て(レシピ集)
□ ／ 1 2	1 2 ～ 1 0	9 ～ 7	6 ～ 4	疑問や不安を言える雰囲気 の授業	ペアトーク 書いたものを見せる 旅行学習 意見を写す
□ ／ 1 2	1 2 ～ 1 0	9 ～ 7	6 ～ 4	誰もを尊重する雰囲気 の授業	発表の様子を見守る リレー指名 指名なし発表 秘密のマイク 子どもたち による学習課題設定
□ ／ 1 5	1 5 ～ 1 2	1 1 ～ 8	7 ～ 5	相互の高まりや認め合いが ある雰囲気 の授業	お互いの発表・評価の場や認 め合う場の設定 意見の練り合い・高め合い
□ ／ 9	9 ～ 7	6 ～ 5	4 ～ 3	協力・助け合いがある雰 囲気 のある授業	教え合い・見せ合い
□ ／ 9	9 ～ 7	6 ～ 5	4 ～ 3	共に生きる仲間としての関 わりがある雰 囲気 の授業	グループ発表 教え合い・見せ合い 自分の役割を探る場
□ ／ 1 2	1 2 ～ 1 0	9 ～ 7	6 ～ 4	授業の設定と指導が統一さ れた授業	子供たちによる学習課題設定 ふり返りカード

合計得点により、自分の授業づくりの様子がどのような傾向であるのかが見えてきたと思います。点数が高かった項目は、これからも維持していきましょう。低かった項目は、「人権が尊重される授業づくりの視点例や、次の「人権が尊重される授業づくりを進めるための手立てレシピ集」を参考に、人権が尊重される授業づくりをしていきましょう。

この「チェックリスト」は、佐賀県人権・同和教育研究協議会人間関係づくり研究委員会『子どもと子どもをつなぐ～学校生活をより楽しくするために～』 2014年 pp.3-4を参考に一部加筆・修正しました。

人権が尊重される授業づくりを進めるための有効な手立て レシピ集

「人権が尊重される授業づくりチェックリスト」で点数の低かった項目を高めるためのレシピです。なお、㊦～㊨の記号は、「人権が尊重される授業づくりチェックリスト」の㊦～㊨の記号と一致しています。

I 【ペアトーク㊦】【グループ発表、お互いの発表・評価の場や認め合う場の設定㊦㊧】【意見の練り合い・高め合い㊦】

- 互いの意見を聴き合う時間であることを確認する。
- 話の仕方（話型）、聴く姿勢を提示しておく（相手の顔を見ながら聞くなど）。
- 何について話（評価）をするのか、明確に意識させる（具体例を挙げるなど）。
- どちらが先に話すか、話す順序を決める。
- 発表するときに、自分の思いや考えも言わせるようにする。
- 友だちが課題についてどのように考えたのか、別の児童生徒に説明させる方法もある。

II 【書いたものを見せる㊦】

- 実物を見せることで相手に分かりやすく伝えることができる。そのためにICT機器（書画カメラ等）を活用して、子ども自身のノートを写すことが考えられる。

III 【旅行学習㊦】【教え合い・見せ合い㊦㊧】

- 旅行学習とは友だちの机を回り、作品や考えなどを見合う活動のことである。発表会のときに取り入れることができる。
- 見る視点をもって活動させる。
- 最低（ ）箇所、（ ）人は旅行するなど、条件を示す（人数等）。
- 事前に自分のサインを決めさせておき、見たらそのサインを書かせる。付箋に良いところを書いて貼らせる。「班ごと→号車ごと→全体」のように、段階を踏んで行くと誰でも同じ量のサインや付箋をもらうことができ、安心感が高まる。

IV 【意見を写す㊦】

- 相手の意見を受け入れる気持ちを育成するために、まずはどの意見も写させるようにする。
- 「～さんの意見を参考に」まで書くようにさせる。
- 慣れてきたらただ写すのではなく、他者の考えを自分の言葉に置き換えて書かせる。このことは、他者がどのように考えているか自分なりに考えることで、他者を理解しようとする気持ちにつながる。
- さらに慣れてきたら、疑問に思うところや意見としてもった気持ちも書かせる。
- 自分の考えをもてない子どもに対する手立て（考えをもつことに慣れる）としても有効である。

V 【発表の様子を見守る㊦】

- 発表が終わったら、まず聴いている子どもたちに反応させることで、発表した児童生徒との直接的なやりとりとなり、その子への関心が高まる。
- 子どもが発表したときに先生が最初に反応を見せると、あたかもそれが答えのように子どもたちが感じてしまい、発表した子どもの発言内容への関心が低くなってしまふことがある。それを防ぐた

めに取り入れるが、まず子どもたちの信頼の中心である教師が頷きながら話を聴いたり（聴き方の手本を示す）、その話について評価したりすることが大切である。

VI 【秘密のマイク団】

- 「このマイクを持つと、何でも話せるようになる秘密のマイクです」という暗示をかけ、自分の思いを安心して話せるような雰囲気をつくる。

VII 【リレー指名団】

- 偏った指名の仕方にならないように、「違う班の人」「違う列の人」を指名するなど、ルールを決めて指名させる。

VIII 【指名なし発表団】

- 自分の考えを伝えたいという気持ちや、自分の意見を聴いてくれていると感じ、伝えたいという雰囲気が必要である。互いを尊重し合う気持ちの育成につながる。
- 譲り合う気持ちが必要であることを伝える。
- 慣れるまでは子ども同士で指名させたり、「自分が言います」と宣言させてから、意見を言わせてりする。

IX 【自分の役割を探る場団】

- たけのこリコーダーやたけのこ読み（自分が決めたところを演奏したり読んだりする）などを行いながら、自分ができた、役に立ったところに喜びをもたせる経験を積み重ねていく。

X 【子どもたちによる学習課題設定団】

- 教師が提示した大きなめあてを基に、自分のめあてを立てさせる。そこでは自分自身、様々な考えがあってもよい。このことは一人一人子どもに応じた学習、違いを認めることを大切にしている。
- 予想を立てる場面がある場合はそれを交流し、自分の意見を認めてもらったり他者の意見を聴いてさまざまな考えをもったりできるような場面を設定するとよい。

XI 【グループ学習団】

- 司会・記録・計時・報告などの役割分担をする。3人が理想的。
- 役割は毎回変える（輪番制にする）。

XII 【振り返りカード団】

- 学習の振り返りに「自分が」「友だちと」「みんなで」のような人権の視点を入れた評価項目を入れる。

以上のような、人権教育の視点に立った授業を進めていく際の主な視点や、人権が尊重される授業づくりを進めるために有効な手立てを取り入れながら授業を展開していきましょう。

この「レシピ集」は佐賀県人権・同和教育研究協議会人間関係づくり研究委員会『子どもと子どもをつなぐ～学校生活をより楽しくするために～』 2014年 pp.4-6を参考に一部加筆・修正しました。

《引用文献》

- (1) 文部科学省 『人権教育の指導方法等の在り方について [第三次とりまとめ]』～実践編～
平成20年 pp. 3-4